

THE WEEKLY NEWS

2010～2011 年度
国際ロータリー会長
国際ロータリー
第 2790 地区ガバナー
第5分区ガバナー補佐

レイ・クリンギンスミス

織田 吉郎

佐野 昭雄

鴨川ロータリークラブ

会長 古市 一雄
副会長 中島 宗一
幹事 島田 誠一
クラブ広報委員長 佐藤 多恵子



今週のプログラム
講師卓話

次週のプログラム
50周年実行委員会

例会日 (火) 12:30～13:30 事務所 〒296-0001 鴨川市横渚 1524-6 TEL 04-7093-2001
例会場 鴨川シーワールドホテル URL <http://www.kamogawa-rc.com>

例会報告 2010年10月12日

12:30

1. 点鐘 会長 古市 一雄
2. ロータリーソング斉唱
3. 会長挨拶 会長 古市 一雄
4. 幹事報告 幹事 島田 誠一
5. ポールハリスフェロー授与
6. ガバナー挨拶 ガバナー 織田 吉郎
7. クラブ協議会
8. ニコニコBOX
9. 出席報告
10. 点鐘

会長あいさつ 会長 古市 一雄



本日は、国際ロータリー第2790地区織田義郎ガバナーをお迎えして、例会が開催されましたこと、誠に意義深く思います。また、この例会後の、クラブ協議会におきまして、率直なご意見等頂き今後のクラブ運営の参考とさせていただきます。そして、第5分区からは、佐野昭雄ガバナー補佐もお越しいただき、大変ありがとうございます。

二つのことについて報告させていただきます。

一つは、同席しております牟田口義郎様におきましては、このたび都合11,000ドルのご寄付を頂きました。本日1,000ドル分についてポール・ハリスフェローの認証状が届いておりますので贈呈させていただきます。残りの10,000ドル分につきましては、ロータリー財団から認証状が届き次第、贈呈式をさせていただきます。

また、ガバナーの公式訪問ということもありましたので、この機会を設定させていただきました。牟田口義郎さんにおきましては、これからも健康に留意されまして、お過ごしいただきたいと思えます。

二つ目は、私事ですが、昨日まで台湾に行っていました。中華民国政府から、建国して99年目、白寿を迎えるということで、超党派の国会議員団18名とともに、双十国慶節が台北の總統府前の広場でありました。この間、馬英九總統、金習平行政院長、その他、外務大臣、官房長官など接見、歓迎会等もあり、交流の絆を確認しました。特に、馬英九總統は、日本と台湾は、特別なパートナーシップの関係であるということを強調されておりました。航空インフラの整備は、急速に進んでおり、今月末には、羽田・台北の松山間に1日4便のシャトル便が就航します。これ等に対して、羽田に近い房総半島の観光地との交流促進を台湾政府関係者に要請してまいりました。医療観光など、新しい観光についても、要請しました。

この後、クラブ協議会がありますが、織田義郎ガバナーにおきましては、鴨川クラブの現状を知っていただき、今後ともご指導下さいますこと、念願します。



幹事報告

幹事 島田 誠一

- * 鴨川市在住の、牟田口義郎氏よりロータリー財団へ880,000円のご寄付をいただき、国際ロータリー日本事務局に送金をさせていただきました。
- * 地区ロータリー財団委員会・補助金小委員長より鴨川市福祉作業所への管理運営車両を寄贈するプロジェクトの承認と金額決定の通知が届きました。
申請金額850,000円に対して決定額600,000円です。
- * 第五分区佐野ガバナー補佐より、第五分区ゴルフコンペ親睦会開催の案内が届きました。
日時 平成22年11月22日(月)
場所 房州カントリークラブ
- * 習志野中央ロータリークラブより、25周年記念式典ならびに祝賀会の案内が届きました。
日時 平成22年11月14日(日) 12時30分登録開始
場所 千葉工業大学津田沼校舎1号棟



ポールハリスフェロー認証状授与
牟田口 義郎 様

7月からガバナーを仰せつかっております、銚子ロータリークラブの織田と申します。どうかよろしくお願いいたします。

現在地区内クラブを1つずつ公式訪問させていただいております。

それは公式訪問がガバナーとしてみなさまにお伝えしなければならない情報、お伝えしたい情報を伝えることがお役目の半分、残りの半分は各クラブのスタイルに直接接して学び、他クラブにそれを伝えてゆく役割がお役目の半分と心得ているからです。

会長・幹事懇談会やクラブ協議会で多くのロータリアンの皆様との意見の交流を通じて、実に多くのことを学ばせていただいております。

レイ・クリンギンスミス会長の掲げるテーマについてお話します。

Building Communities, Bridging Continents「地域を育み、大陸をつなぐ」これまで会長のテーマの多くはロータリアンに向けて発せられたものでした。ここ5年間を見ても「超私の奉仕」「率先しよう」「ロータリーは分かちあいのこころ」「夢をかたちに」「ロータリーの未来はあなたの手の中に」といった具合です。そこでクリンギンスミス会長は一般の人にも理解できるテーマ、ロータリーの使命を表し、業績を強調できるようなテーマにしたいと考えました。会長はテーマについての話をする時必ず引用するのがロータリーの中核的5つの価値観です。「奉仕」「親睦」「多様性」「高潔性」「リーダーシップ」この5つは同等の比重を持って分かちあう必要があると表現されます。

それは、ロータリアンは活動を展開するにあたって①奉仕のこころにかなっているか②親睦を深めることができるか③人々は多様な文化や価値観を持っていることに配慮しているか④高潔な人間性を高めることができるか⑤リーダーシップを磨くことはできるか、この5つのチェックポイントで常に活動を修正しながら「地

域を育み、大陸をつなぐ」活動を展開してほしいということだと私は理解しています。

また、クリンギンスミス会長が四大奉仕という原則を大切にすることは、2010-2011 年度会長賞の分類を見れば一目瞭然です。「ロータリーの綱領」をもってロータリー運動の原則とする視点が見事に貫かれていてとても分かりやすく親しみが持てます。

さて、私にいただいた残りの 20 分で皆様に 1 つのことだけをお伝えします。それは「自分のクラブは自分で守る」という自治のこころを磨いてほしいということです。

今日本のロータリーの会員減少に歯止めがかかりません。世界全体ではここ 10 年間を見るとほんのわずかですが増加しています。経済先進国と途上国をグループ分けしてみると先進国の後退とそれを補う途上国の勃興を見て取ることができます。この 1 年間ではアメリカの落ち込みをインドが補い、日本とイギリスの落ち込みを韓国が補うという形になっています。何故先進国が減少を重ね、一方で途上国がそれをカバーする勢いを持ってきたのか、先進国全体の中で何故日本だけが突出した減少を続けているのか、それを正しく分析することなくやみくもに会員増強を叫んでも増強できるものではありません。

日本のロータリーはどうしてしまったのでしょうか。ただ単に好景気による拡大、長引く不況による減少、それだけなのでしょう。進化に乗り遅れてしまったのでしょうか。あるいは進化どころか退化を重ねている状況に嫌気がさして退会者が続出したのでしょうか。ロータリーの現状を進化と捉えるか退化と考えるか、もう既にそこから意見の分かれるところです。

どんなにロータリーが変質してもそれは時代の要請するところの進化なのだと考える人々が

Adapt or Perish (適応しますかそれとも絶滅しますか?) を錦の御旗に掲げて変化しなければ恐竜のように絶滅しますよと警告します。しかしこれはあくまで「変化することは進化することだ」という根拠に乏しい前提によるものです。ロータリーの歴史を辿ってゆく過程で「素朴なスタート」から「しっかりした理論づけの時代」そして「無原則的拡大の時代」へと転換してゆく姿をトレースして気付くことは、ロータリーは「無原則的拡大の時代」の入口あたりから明らかに退化しているということです。時代に適応することは時代の流れに乗って会員を拡大することだということにすり替えてしまっています。折から IT 化=進化という錯覚に流されてしま



っているのです。日本のロータリーの衰退は、ロータリーの変質による魅力の喪失にあると考えたほうが問題の本質に迫りやすいでしょう。

お手元の資料をご覧ください。

この日本のロータリーの危機を私は 3 つの要素によるものと大別しました。

1 つは国際ロータリーの指導方針によるもの、2 つ目は日本の社会が独自に抱えている問題、そして 3 つ目は私たちのロータリークラブ自体の問題です。

今日は時間的制約がありますので、それぞれの項目から代表的な問題のみをお話することにします。

まず国際ロータリーでは中央集権化が進んでいることです。1992 年の手続要覧を見て私は大変驚きました。それまで Central Office という名称だったエバンストンの世界本部が World Headquarters という名称に変わったのです。司令部、これほどロータリーに相応しくない名称はありません。平然とこんな名称変更をする感覚に疑問を持ち、以来、国際ロータリーの方針をより注意深く見るようになりました。「ロータリーのシステムの要はクラブの自治にある」と言ったのはジョン・ケニー直前会長です。「司令部」と「自治」これは相対する概念です。

国際ロータリーが進めているグローバルスタンダード化 (CLP の推奨) は世界のクラブを均質にしようとするもの、世界のクラブをボランティア団体として一元化し、上意下達で集団の生産性を高めることを狙っています。世界中の花園をすべてバラの花だけにしておもうということです。ロータリーは各国、各民族、各地方に生まれてそれぞれ美しく花開いた文化や伝統や情緒、その国特有の美しい花を大切にしておくロータリーでなければなりません。効率化、画一化を進めてはいけません。ドイツ人はドイツ人のように、アメリカ人はアメリカ人のように、ペルー人はペルー人のように、そして日本人は日本人のように考え、行動して初めてロータリーが国際団体としての意味があるのです。

では何故国際ロータリーはグローバルスタンダード化を推進しようとするのでしょうか。R I の打つ手の全ては会員を増やすこと一本に絞られていて、そのためには原則に無頓着、ほとんど「なりふり構わぬ」という形容がぴったり当てはまります。

国際ロータリーの問題として今1つ「ボランティア団体化の推進」を挙げます。これは会員増強のためのグローバルスタンダード化と表裏一体をなすものです。国際ロータリーは2017年のロータリー財団100周年に向けて大きな成果を求めています。そのためにはロータリー単独でできることは限られていますから広く募金を展開して大きな資金を得て、大きな成果をあげようとしています。そのためには分かりやすいプログラムでなければなりません。ウォールストリートジャーナルが何年前かに「ロータリーの地道な活動はノーベル平和賞に値する」という一文を掲載しました。会員一人一人が職業倫理を高揚してもその活動は見えませんからノーベル賞はとれません。End Polio Now ポリオ撲滅のように大きな目標を打ち立て、それに向けて一致団結している姿こそがノーベル賞への道だと考えています。皆さんにご協力をいただいているポリオ撲滅、この運動自体はこれまでキャンペーンを展開しなかったら500万人ともいわれる子供がポリオにかかっていたらと言われていたわけで、素晴らしい成果を収めています。一方で組織論としてはロータリーを考える時、ロータリーを変質させる役割を果たした主役でもあるのです。

次に私たちのクラブを直接的に取り巻く日本の社会の問題に移ります。

1つは経済の市場原理主義による社会の荒廃が進んでいます。実体経済とはかけ離れたマネーゲームによって、国家や社会のことなど考えることもなく、自分の利害損得だけで行動する人々、正直者が正しく報われることのない社会に変貌し、職業奉仕を大儀とするロータリアンは無力感を味わっています。

今1つは文化的底力（ローカリズム）の衰弱です。実はこれが日本ロータリーの危機の最も中心的要素だと私は考えています。日本人はおしなべて祖国に対する誇りも自信も失ってしまった。そしてそれによって日本人は大局観と教養を失ってしまった。それ故グローバリズムにとめどなく流されてしまう。国際ロータリーの方針、つまりグローバルスタンダードに無条件で飛びつく。自分の頭で考えること、つまりローカリズムを簡単に放棄してしまうのです。かつて鎖国時代の日本は世界的に見ればローカリズムの標本のような世界です。



その江戸時代に実に強固な文化的底力を見ます。明治から一気に日本が近代化を成し遂げたのは江戸時代にその下地があったからという見方を否定する人はまずいません。

江戸末期、日本の人口3500万人に対して寺子屋15000ヶ所、識字率は侍で100%。庶民男子70%、女子20%。江戸市中では70%の識字率であったといわれています。当時世界の中心を自認していたロンドンの識字率は30%でした。幕末開国時、日本を植民地化しようとやってきたイギリス人は、江戸市中で庶民が瓦版をまわし読みしているのを見て植民地化をあきらめたといえます。長い間鎖国をしていたにもかかわらず世界的に飛びぬけていた文化レベル、「武器」でも「侍」でもなくこの「文化」、つまりローカリズムが国を護ったことは実に示唆に富んでいます。私達は江戸人の持っていた文化の貯金を使い果たしてしまったのでしょうか。今多くのクラブはグローバルスタンダードに無原則的に流され続けています。そんなロータリーに嫌気がさして退会してゆく会員は少なくありません。

日本社会の問題の最後は我慢力の衰退です。私は戦後生まれです。小学校時代、東京にあっても貧困は身近でした。ボロを着て鼻をたらしお腹を空かせた友達がいて、学校を休みがちな彼らを誘いに行くのが私の朝の日課でした。今思えば身近な貧困は私に他人の不幸に対する敏感さを養ってくれた最大の教師でした。みんな仲良く生きてゆくためには我慢が必要なことを皆が知っていて互いに助け合う強い絆がありました。今は集団の中で我慢するより集団を離脱して浮遊する気楽さを求めるようになってしまいました。登校拒否や会社に縛られたくない派遣社員の増加、離婚も一種の集団離脱です。ややこしい人間関係を嫌う人々は当然ロータリー集団に入ろうともしません。我慢力が衰弱していた原因は私達が飢餓から解き放たれ、飢え死にすることのない社会になったからだと考えています。

考えればこれは人類 500 万年の歴史の中で始めて経済先進国に訪れた現象です。日本だけでなく先進国ロータリーが会員を右肩下がりに減らしていることと我慢力の衰弱は大きなかわりがあるのではないのでしょうか。

駆け足で日本のロータリークラブの危機の外的要因を見てきました。

日本のクラブ自身の問題はこの後のクラブ協議会で話させていただきます。まず今は、

- ① 先進国ロータリーは、とりわけ日本のロータリーは未曾有の危機にあるという認識を持つこと
 - ② そして危機の原因を分析し、できるところから改善してゆこうと努めること
 - ③ 自分たちのクラブは自分たちで守るという自治のところに目覚め、研ぎすましてゆくこと
 - ④ 国際ロータリーの打ち出すグローバルスタンダードは必ずしも日本のクラブを発展させない。そればかりか衰退させてゆくこともあると知ること
- をご理解くだされば幸いです。

最後に私が掲げさせていただいた地区のテーマ「スタイル（様式）を磨こう」にふれさせていただきます。地区内のそれぞれのクラブは長い年月をかけて1業種1会員制や四大奉仕という型、例会重視などの習慣を積み重ね、ロータリーならではのスタイル（様式）を創り上げてきました。そのスタイル（様式）に今危機が訪れています。私達は何を変えてはならず、何を変えてゆかねばならないのか。各クラブで徹底的に討論してほしいと願っています。

討論の過程でクラブの持つ「物差し」がより高い質を持ち、それがクラブのスタイル（様式）に磨きをかけることにつながってゆくのです。それぞれのクラブが独自の「物差し」を創る過程の中でクラブに意欲がみなぎります。会員個々人が磨かれ、結果として地域社会が生き生きしてくるのです。

私達の手によって地域を育み、大陸をつないでゆこうではありませんか。

ご静聴ありがとうございました。



クラブ協議会

ガバナーと有意義な時間をすごさせていただきました

◎ ニコニコ・ソーリーBOX

氏名	メッセージ
伊藤 正人	地区補助金
島田 誠一	ガバナー訪問
古市 一雄	〃

◎出席報告

出席免除会員 3名

例会日	会員	出席	欠席	MU	出席率
10/12	29	21	2	3	93%
10/5	29	21	0	5	確定100%